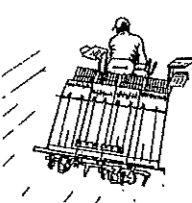
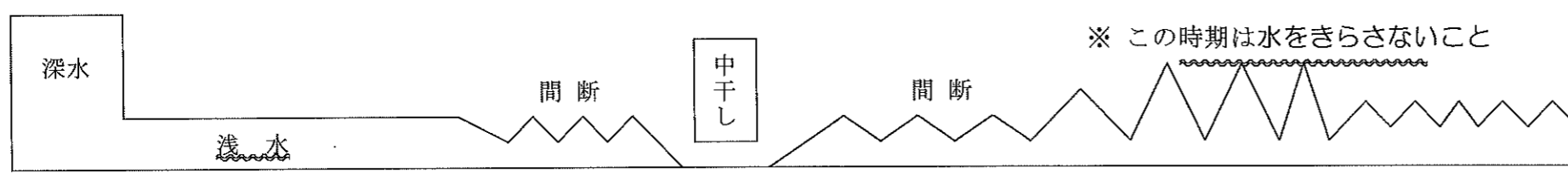


令和4年度水稲栽培講習会資料

〈適切な栽培管理により安全安心で、低コスト・高品質な一等米作りに努めましょう〉

J A 東とくしま農業振興対策部

	4月	5月	6月	7月	8月	9月																																									
生育ステージ コシヒカリ 4/10植え付け事例	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>植え付け 活着</p>  <p>管理ポイント(その1)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>有効分げつ期</p> <p>PK追肥 5/31頃</p> <p>出穂40日前</p> <p>管理ポイント(その2)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>無効分げつ終期</p> <p>幼穂形成期</p> <p>穂肥 6/24頃</p> <p>出穂15日前</p> <p>管理ポイント(その3)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>減数分裂期</p> <p>穂ばらみ期</p> <p>出穂 7月9日頃</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>登熟期</p> <p>【参考】品種特性表 (天候によりかわることもある)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>品種名</th> <th>田植期</th> <th>幼穂形成期</th> <th>出穂期</th> <th>成熟期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">コシヒカリ</td> <td>4月10日</td> <td>6月15日</td> <td>7月9日</td> <td>8月14日</td> </tr> <tr> <td>4月20日</td> <td>6月19日</td> <td>7月13日</td> <td>8月18日</td> </tr> <tr> <td>5月1日</td> <td>6月24日</td> <td>7月18日</td> <td>8月23日</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>						品種名	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期	コシヒカリ	4月10日	6月15日	7月9日	8月14日	4月20日	6月19日	7月13日	8月18日	5月1日	6月24日	7月18日	8月23日																							
品種名	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期																																											
コシヒカリ	4月10日	6月15日	7月9日	8月14日																																											
	4月20日	6月19日	7月13日	8月18日																																											
	5月1日	6月24日	7月18日	8月23日																																											
水管理	 <p style="text-align: center;">※ この時期は水をきらさないこと</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">平均気温(°C)</th> <th colspan="3">日照時間(h)</th> </tr> <tr> <th>本年</th> <th>前年</th> <th>平年</th> <th>本年</th> <th>前年</th> <th>平年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月上旬</td> <td>13.4</td> <td>14.5</td> <td>13.3</td> <td>93.0</td> <td>70.9</td> <td>64.2</td> </tr> <tr> <td>中旬</td> <td>16.9</td> <td>14.8</td> <td>15.1</td> <td>73.2</td> <td>72.4</td> <td>66.0</td> </tr> <tr> <td>下旬</td> <td>18.1</td> <td>17.0</td> <td>16.6</td> <td>44.1</td> <td>89.6</td> <td>67.8</td> </tr> <tr> <td>5月上旬</td> <td>17.4</td> <td>17.6</td> <td>18.6</td> <td>75.7</td> <td>73.3</td> <td>65.7</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">徳島地方気象台(徳島)</p>							平均気温(°C)			日照時間(h)			本年	前年	平年	本年	前年	平年	4月上旬	13.4	14.5	13.3	93.0	70.9	64.2	中旬	16.9	14.8	15.1	73.2	72.4	66.0	下旬	18.1	17.0	16.6	44.1	89.6	67.8	5月上旬	17.4	17.6	18.6	75.7	73.3	65.7
	平均気温(°C)			日照時間(h)																																											
	本年	前年	平年	本年	前年	平年																																									
4月上旬	13.4	14.5	13.3	93.0	70.9	64.2																																									
中旬	16.9	14.8	15.1	73.2	72.4	66.0																																									
下旬	18.1	17.0	16.6	44.1	89.6	67.8																																									
5月上旬	17.4	17.6	18.6	75.7	73.3	65.7																																									
管理のポイント	<p>田植え後</p> <p>深水が基本です。活着するまでは水によって葉からの蒸散を抑える。</p> <p>活着後</p> <p>浅水管理とし、水温・地温の上昇を図り分げつを促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(濁水対策のためにも、浅水管理を実施する) ※大雨後は、ただちに排水に努める。 		<p>15本程度の茎数ができれば中干しを始める。</p>		<p>※この時期は水をきらさないこと</p>																																										
管理のポイント	<p>管理ポイント(その1)</p> <p>植え付け</p> <p>(1) 田植え時で大切なのは植え付け密度です。栽植密度は坪当たり50株以下(30cm×22~23cm以上)、1株当たりの植え付け本数を3本程度とする。苗を多く植え付けると、細い茎が混み合った株となり、過繁茂や生育後期の活力が低下し、整粒米の低下を招く。疎植にすると茎の充実が良い。</p> <p>(2) 補植用の苗はいもち病の発生原因になるので早めに片付けましょう。</p> <p>早期追肥</p> <p>(1) 移植後、天候等により、生育が遅れたと認められる場合は、活着促進の目的で田植え後7日頃に行う。</p> <p>施肥 例1) 硫安 5~7kg/10a 例2) 塩安 4~5kg/10a</p> <p>※ 5月10日以降の田植えは、老化苗や肥効が遅い場合でも、早期追肥しない。(地温が上昇し、肥料の効きが良くなってきているため)</p>		<p>管理ポイント(その2)</p> <p>目標茎数確保</p> <p>目標茎数(20~25本/株)を確保するため15本程度の茎数になれば中干しを行う。中干しの日数は4~6日で田面に小さな亀裂が入る程度とする。</p> <p>※土中の有害となるガスを抜き、根傷みを防止する効果がある。</p> <p>間断灌水</p> <p>出穂するまで、浅水の間断灌水とする。</p> <p>PK追肥(中間追肥)の施用 (一発肥料施用田も積極的に)</p> <p>(1) 出穂40日前に施用する。根の発育を促進し、茎葉を硬くし、登熟を向上させる目的で行う。</p> <p style="text-align: center;">↓ 乳白未熟等の軽減</p> <p>施肥例) 一発肥料施用田の場合 BBPK2号 20~40kg/10a 元肥+穂肥体系田の場合 苦土重焼リン 20~40kg/10a</p> <p>※ 窒素成分の入った肥料は施用しない(倒伏の原因になるため)</p>		<p>管理ポイント(その3)</p> <p>穂肥の施用</p> <p>(1) コシヒカリでは出穂の15日前(幼穂長が3cm)頃とする。キヌヒカリは出穂の21日前(幼穂長が0.5cm)とする。</p> <p>施肥 例1) BBみのり 10~15kg 例2) BBNKC52号 10~15kg 例3) おてがるくんNK10 10~15kg</p>																																										
	<p style="text-align: right;">低コストのおすすめ資材</p> <p>苦土一番(総合ミネラル肥料) 40kg/10a 苦土・ケイ酸 粒状で撒きやすい肥料です</p>																																														

農薬散布時の飛散注意

〈農薬・肥料等の散布時は、隣接圃場・近隣住民に配慮し、行いましょう。〉

雑草防除

- 初期除草
- ・投げ込み剤
ゴウワンDLジャンボ 700g / 10a (田植直後～9日)
ジェイフレンドジャンボ 400g / 10a (田植後 5～12日)
デオーレジャンボ 400g / 10a (田植後 3～12日)
 - ・粒剤
ジェイフレンド1キロ粒剤 1kg / 10a (田植後 10～15日)
〈主な雑草以外ではイボクサ、クサネム等に対して効果が高い。〉
エーワン1キロ粒剤 1kg / 10a (田植後10～15日)
〈ホタルイ・コナギに対して効果が高い。〉
 - ・フロアブル剤
トップガンLフロアブル 500 ml / 10a (田植直後～15日)

- その他の除草
- ・藻類、表層はく離 発生時
モゲトン粒剤 2kg / 10a (収穫45日前まで、3回以内)
モゲトンジャンボ 1kg / 10a(収穫45日前まで 3回以内)
 - ・キシウスズメノヒエ (よばい草)
クリンチャー1キロ粒剤 1kg / 10a
又は、稲刈り後、茎葉が出てからラウンドアップ50倍を発生している所に散布。

- 中後期除草
- ・オモダカ、ホタルイ等の多年性雑草の発生時
湛水散布:サンパンチ1キロ粒剤 1kg / 10a、田植後15日～ノビエ3.5葉期(収穫60日前まで)。
湛水散布:レプラスジャンボ 400g / 10a、田植後14日～ノビエ4葉期(収穫60日前まで)。
 - ・イネ科以外の雑草の発生時
粒状水中MCP 3kg / 10a (湛水散布)
※幼穂形成期前(6/15)までに使用。
※平均気温20℃以上で使用。

※除草剤散布に当たっての注意

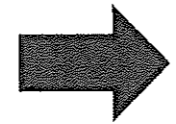
- 湛水散布に当たっては、水の出入りを止めて、湛水状態(3～5cm)で均一に散布し、散布後3～4日程度は湛水状態を保ち、散布後7日程度は落水、掛け流しはしない。
- ◎ 強風時の散布は避ける。
- 梅雨時など、散布後に多量の降雨が予想される場合は、使用を避ける。

病害虫防除

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
発生時期	病害	苗立枯病 ばか苗病	黄化萎縮病	葉いもち・紋枯病	穂いもち・もみ枯細菌病		
	害虫		イネミズゾウムシ・ジャンボタニシ		カメムシ・ウンカ・ヨコバイ ツトムシ・コブノメイガ		

いもち病・イネミズゾウムシ・ウンカ類・ニカメイチュウなど

- フルサポート箱粒剤 50g/箱 (移植2日前～当日)
- ブーンレパード箱粒剤 50g/箱 (移植当日)
- デジタルミネクト箱粒剤 50g/箱 (移植3日前～当日)



6月中旬頃施用

- リンパー粒剤 3～4kg/10a (収穫30日前まで、2回以内)
- いもち病発生圃場では・・・
コラトップ粒剤5 3～4kg/10a



7月初～中旬頃施用

- キラップ粒剤 3kg/10a (収穫14日前まで、2回以内)
※出穂10日前～出穂期にかけて散布適期

☆環境にやさしい農業を進めましょう!
農薬の空容器・不要農薬は、農協が別途案内する回収日に出しましょう。(11月に予定)

補完防除

- 本田初期
 - ・イネミズゾウムシ、イネゾウムシ
トレボン粒剤 2～3kg / 10a (収穫21日前まで、3回以内)
 - ・ジャンボタニシ
ジャンボたにしくん 1～2kg/10a 移植後、但し収穫60日前まで(2回以内)
 - ・黄化萎縮病
※ 降雨により稲が冠水し、その時の水温が18～20℃の時に感染する。
● 冠水を避けるよう排水に努める。
周辺のイネ科雑草を除草する。
※特別栽培の場合は
スクミンベイト3 2～4kg/10a
- 本田中後期
 - ・いもち病
ビームゾル 1,000倍(収穫7日前まで、3回以内)
ブラシフロアブル 1,000倍(収穫7日前まで、2回以内)
 - ・紋枯病
バリダシン液剤5 1,000倍 (収穫14日前まで、5回以内)
 - ・ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類
トレボン乳剤 1,000～2,000倍 (収穫14日前まで、3回以内)
 - ・イネクロカメムシ
6月上旬頃発生が見られる場合、
キラップ粒剤 3kg/10a(収穫14日前まで、2回以内)